

研究発表

研究代表者

木村 哲

- 1) 塩野徳史, 金子典代, 市川誠一, 山本政弘, 健山正男, 内海眞, 木村哲, 生島嗣, 鬼塚哲郎; MSM (Men who have sex with men) における HIV 抗体検査受検行動と受検意図の促進要因に関する研究. 日本公衆衛生雑誌 60 (10) : 639-650, 2013
- 2) 木村哲 (監訳); 成人および青少年 HIV-1 感染者における抗レトロウイルス薬の使用に関するガイドライン 2013 年 2 月 12 日版. テクノミック, 東京, 2013
- 3) 木村哲 (監訳); 成人および青少年 HIV 感染者における日和見感染症の予防法と治療法に関するガイドライン 2013 年 7 月 8 日版. テクノミック, 東京, 2013
- 4) 木村哲; 日本における HIV 感染症の動向と現状 シリーズを終えるにあたって. 医薬の門 53 (1) : 7-8, 2013
- 5) 木村哲; エイズの発見から 30 年. BIO Clinica 27 (3) : 217, 2012
- 6) 木村哲; HIV 感染症を取り巻く現状. 薬事 54 (9) : 1407-1413, 2012
- 7) Honda M, Ishisaka N, Ishizuka S, Kimura S, Oka S and Behalf of Japanese Anti-HIV-1 QD Therapy Study Group; Open-label randomized multicenter selection study of once daily antiretroviral treatment regimen comparing ritonavir-boosted atazanavir to efavirenz with fixed-dose abacavir and lamivudine. Intern Med 50: 699-705, 2011

研究分担者

柿沼 章子

- 1) 柿沼章子, 久地井寿哉, 岩野友里, 藤谷順子, 大平勝美; HIV/HCV 重複感染患者の支援特性 (第 1 報) ICF (国際生活機能分類) に基づく生活機能尺度の開発. 第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2013.11
- 2) 久地井寿哉, 柿沼章子, 岩野友里, 藤谷順子, 大平勝美; HIV/HCV 重複感染患者の支援特性 (第 2 報) 生活機能の社会経済的格差の分析. 第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2013.11
- 3) 岩野友里, 久地井寿哉, 柿沼章子, 大平勝美; HIV/HCV 重複感染患者の支援特性 (第 3 報) 自己観察記録に基づく期間健康特性の分析. 第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2013.11
- 4) 久地井寿哉, 柿沼章子, 岩野友里, 大平勝美; 「エイズ患者/HIV 感染者」に対する長期療養時代の施設受け入れ可能性～北海道介護・福祉施設調査. 第 72 回日本公衆衛生学会, 2013.10
- 5) 柿沼章子, 久地井寿哉, 井上佳世, 関由紀子, 北村弥生, 玉井真理子, 井上洋士, 大平勝美; 薬害 HIV 感染被害者・家族の現状からみた血友病に係わる今後の課題及び課題克服への支援研究 (第三報) -生活の再構築支援と支援展開 健康の多様性 (Health Diversity) の観点から-. 第 38 回日本保健医療社会学会大会, 2012.5
- 6) Kakinuma A, Kuchii T, Seki Y, Inoue Y, Kitamura Y, Kitamura Y, Tamai M, Inoue K, Ohira K; Restructuring and improving QOL in Japanese HIV victims with hemophilia and their families: How do we rebuild our life with effective support?. WORLD FEDERATION OF HEMOPHILIA, WFH 2012 World Congress, 8-12 July, 2012, Paris, FRANCE
- 7) Mizukoshi E, Kakinuma A, Sugwara Y, Oka S, Ohira K; A 10-year follow up of an HIV/HCV co-infected hemophilia A after living donor liver transplantation. WORLD FEDERATION OF HEMOPHILIA, WFH 2012 World Congress, 8-12 July, 2012, Paris, FRANCE

田中 純子

- 1) 大久真幸, 柿沼章子, 久地井寿哉, 岩野友里, 大平勝美, 田中純子; 薬害 HIB・HCV 感染血友病の生活実態と課題. 第 72 回日本公衆衛生学会総会, 2013.10

照屋 勝治

- 1) 照屋勝治; HIV 感染者における高血圧. HIV 感染症と AIDS の治療, 4(1), 16-22, 2013
- 2) 照屋勝治; 知っておくべき HIV 感染症の知識～HIV 感染患者の透析医療を行うために～. 医薬の門, 53(5), 281-290, 2013

江口 晋

- 1) Eguchi S, Takatsuki M, Soyama A, Torashima Y, Tsuji A, Kuroki T; False positivity for the human

- immunodeficiency virus antibody after influenza vaccination in a living donor for liver transplantation. *Liver Transpl.* 2013 Jun; 19(6): 666
- 2) Eguchi S ; Is low central venous pressure effective for postoperative care after liver transplantation? *Surg Today.* 2013 Jul; 43(7): 828-9
 - 3) Eguchi S, Takatsuki M, Kuroki T ; Liver transplantation for patients with human immunodeficiency virus and hepatitis C virus co-infection: update in 2013. *J Hepatobiliary Pancreat Sci.* 2013
 - 4) 高槻光寿, 江口晋, 曾山明彦, 兼松隆之, 中尾一彦, 白阪琢磨, 山本政弘, 瀧永博之, 立川夏夫, 釘山有希, 八橋弘, 市田隆文, 國土典宏 ; 血液製剤による HIV-HCV 重複感染者の予後—肝移植適応に関する考察— *肝臓.* 53(10): 586-590, 2012
 - 5) 曾山明彦, 江口晋, 高槻光寿, 日高匡章, 村岡いづみ, 兼松隆之 ; HIV-HCV 重複感染患者における肝予備能評価の重要性. *肝臓.* 53(7): 403-408, 2012
 - 6) Eguchi S, Soyama A, Mergental H, van den Berg AP, Scheenstra R, Porte RJ, Slooff MJH ; Honoring the contract with our patients: outcome after repeated re-transplantation of the liver. *Clin Transplant.* 25(2): E211-8, 2011
 - 7) 高槻光寿, 江口晋, 曾山明彦, 兼松隆之, 中尾一彦, 白阪琢磨, 山本政弘, 瀧永博之, 立川夏夫, 釘山有希, 八橋弘, 市田隆文, 國土典宏 ; 血液製剤による HIV-HCV 重複感染者の予後—肝移植適応に関する考察— *肝臓.* 53(10): 586-590, 2012

四柳 宏

- 1) 四柳宏 ; HIV と肝炎ウイルスの重複感染症の治療法. *化学療法の領域* 2013; 29: 1893-1901
- 2) Yanagimoto S, Yotsuyanagi H, Kikuchi Y, Tsukada K, Kato M, Takamatsu J, Hige S, Chayama K, Moriya K, Koike K ; Chronic hepatitis B in patients coinfecting with human immunodeficiency virus in Japan: a retrospective multicenter analysis. *J Infect Chemother.* 2012; 18: 883-90
- 3) 四柳宏 ; 新規 HCV 治療薬を HIV 感染症患者にどう使うか. *HIV 感染症と AIDS の治療* 2012; 3: 30-39
- 4) Hatakeyama S, Iwatsuki-Horimoto K, Okamoto K, Nukui Y, Yata N, Fujita A, Inaba S, Yotsuyanagi H, Kawaoka Y ; Unadjuvanted pandemic H1N1 influenza vaccine in HIV-1-infected adults. *Vaccine.* 2011; 29: 9224-8

三田 英治

- 1) Nakazuru S, Yoshio T, Ogawa Y, Yuguchi K, Hasegawa H, Sakakibara Y, Kodama Y, Uehira T, Mita E ; Human immunodeficiency virus (HIV)-associated duodenal lymphoma. *Endoscopy.* 2011 Dec;43 Suppl 2 UCTN:E384-5
- 2) 三田英治 ; HIV 感染者の B 型肝炎. *肝炎診療バイブル 改訂第 2 版* pp. 181-183, メディカ出版, 2012
- 3) 三田英治 ; HIV 感染者の C 型肝炎. *肝炎診療バイブル 改訂第 2 版* pp. 184-186, メディカ出版, 2012
- 4) 三田英治 ; HIV と消化器疾患. *日本医師会雑誌* 2012; 141: S125

上平 朝子

- 1) 上平朝子 ; HIV 患者における腎機能障害の問題、大阪透析研究会会誌 第 29 巻 2 号 : 215-225, 2011

藤谷 順子

- 1) 吉田渡, 石川秀俊, 大金美和, 表田和子, 佐藤千尋, 藤谷順子 ; 血友病包括外来の取り組み—患者参加型の装具処方について—. *PO アカデミージャーナル* 20(4): 225-227, 2013
- 2) 藤谷順子, 藤本雅史, 早乙女郁子, 桂川陽三 ; 中高年期を迎えた血友病症例に対する専門外来の試み. 第 49 回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2012

中根 秀之

- 1) 中根秀之 ; ICD-11 プライマリケア版の動向. *精神神経学雑誌* 115(1): 53-59, 2013
- 2) 中根秀之, 柿沼章子, 久地井寿哉, 岩野友里, 田中純子, 大金美和 ; 血液凝固因子製剤による HIV 感染被害者における精神医学的問題. 第 10 回日本うつ病学会, 2013
- 3) 中根秀之 ; ICD-11 プライマリケア版の動向 新たな診断カテゴリ導入の可能性. 第 109 回日本精神神経学会, 2013

研究課題：HIV感染症及びその合併症の課題を克服する研究

課題番号：H24-エイズ-指定-002

研究代表者：白阪琢磨（国立病院機構大阪医療センター臨床研究センター エイズ先端医療研究部長）

研究分担者：渡邊大（大阪医療センター臨床研究センター 室長）、久慈直昭（慶應義塾大学医学部産婦人科 講師）、村井俊哉（京都大学精神医学 教授）、鯉淵智彦（東京大学医科学研究所感染免疫内科学 助教）、大北全俊（大阪大学医学系研究科哲学・倫理学 特任助教）、吉村和久（国立感染症研究所エイズ研究センター 室長）、仲倉高広（大阪医療センター臨床心理室 主任心理療法士）、廣常秀人（大阪医療センター精神科 科長）、秋葉隆（東京女子医科大学腎臓病総合医療センター血液浄化療法科 教授）、横幕能行（名古屋医療センター感染症内科 医長）、高田清式（愛媛大学医学部附属病院総合臨床研修センター 教授）、佐保美奈子（大阪府立大学大学院看護学研究科 准教授）、井上洋士（放送大学教養学部 教授）、藤原良次（特定非営利活動法人りょうちゃんず 理事長）、桜井健司（特定非営利活動法人HIVと人権・情報センター 事務局長）、山崎厚司（公益財団法人エイズ予防財団 部長）、小西加保留（関西学院大学人間福祉学部 教授）、山内哲也（社会福祉法人武蔵野会八王子生活実習所 施設長）、下司有加（大阪医療センター看護部 副部長）

1. 研究目的

HIV 感染症は HAART によって医学的管理ができる慢性疾患となったが、HIV 感染症の治療の分野で克服すべき課題が山積している。本研究では平成 23 年度に改定されたエイズ予防指針の見直し作業班の報告に基づき、A. 治療・合併症、B. 地域の医療の質の向上、C. 陽性者支援のための地域連携、D. 長期療養支援に大別し、課題の抽出と解決方法の提示を目的とし、最終年度に対策と提言を目指す。

2. 研究方法

目的達成のため今年度を実施した主な研究方法を次に示す。

A-1. 急性感染期の診断・治療での課題に関する研究（渡邊）：急性期治療例における残存プロウイルス量の長期観察および早期免疫低下関連因子の解析。A-2. HIV 陽性者の生殖医療に関する研究（久慈）：精液中抗 HIV 剤等の測定および洗浄精液を用いた不妊治療の事業化の検討。A-3. HIV 感染者の口腔内免疫に関する研究（吉村）：唾液のサイトカインや口腔病原微生物量の測定と口腔症状の関連性の解明。A-4. MRI 画像による神経認知障害の神経基盤の解明*（村井）：神経心理検査陽性者の MRI 画像の検討。A-5. HIV 医療の倫理的課題に関する研究（大北）：課題把握のため海外ジャーナル等の文献調査の実施。A-6. 抗 HIV 療法のガイドラインに関する研究（鯉淵）：国内外の知見を基にガイドラインを改訂。B-1. HIV 陽性者の心理学的問題と対応に関する研究（仲倉）：HIV 陽性者の神経心理学的障害出現頻度の調査継続と日常診療で実施できる簡便なスクリーニング検査の開発。B-2. HIV 陽性者の心理的負担、および精神医学的介入の必要性和ネットワーク形成に関する研究（廣常）：初診 1 年後のメンタルヘルス調査の継続と課題の抽出、研修会参加者を対象としたネットワーク構築、AIDS 精神疾患ハンドブックの和訳。B-3. HIV 感染患者における透析医療の推進に関する研究（秋葉）：透析医療における標準的な透析操作と院内感染予防に関するマニュアル（三訂版）の改訂

作業の推進。B-4. 病病・病診連携の地域モデルの構築（横幕）：愛知県での ICT (Information communication technology) による HIV 病・病診連携システムの構築と評価。B-5. 地域 HIV 看護の質の向上に関する研究（佐保）：看護研修会の実施と養護教諭向け教材の開発。B-6. HIV 陽性者のセクシュアルヘルス実態把握と支援方略検討（井上）：HIV 陽性者のセクシュアルヘルスのウェブ調査とスキルアップコースの開発。C-1. 心理専門カウンセラーおよびピアカウンセラーの介入に関する研究（藤原）：薬害 HIV 感染被害者の心理的現状把握のためのインタビュー調査。C-2. 当事者支援に関する研究（桜井）：保健所等で発見された陽性者の受診行動の阻害因子と促進因子の解明およびマニュアル『HIV 検査相談要確認・陽性告知のポイント』の改訂。C-3. HIV 陽性者ケア等に関する NPO/NGO の連携に関する研究（山崎）：NGO へのアンケート調査・ヒアリング、NGO 指導者研修の評価。D-1. 長期療養患者のソーシャルワークに関する研究（小西）：精神疾患等の障碍陽性者の生活課題をフォーカスグループインタビューなどによる解明、市民主体の地域啓発活動の推進と評価。D-2. 長期療養者の受け入れにおける福祉施設の課題と対策（山内）：福祉施設の受け入れマニュアルを用いた研修会の実施および効果的研修プログラムの検討等。D-3. 長期療養看護の現状と課題に関する研究（下司）：訪問看護ステーション連絡協議会での訪問看護研修会の実施と都市部での介護・福祉職を対象とした研修会の実施。D-4. 地域における HIV 診療および福祉連携のあり方に関する研究（高田）：地方の診療モデルとして HIV 診療の充実および福祉連携に関し愛媛県および四国の HIV 診療の実態調査と具体的な問題点・改善策の検討。その他、携帯を用いた服薬支援ツールの改良および検査予約システム開発、HIV 治療の薬剤情報提供ホームページの開発。なお、研究分担 A-4* は今年度が初年度である。

倫理面への配慮：疫学研究に関する倫理指針を遵守した。個人情報扱う研究では施設の倫理委員会の承認後に実施した。

3. 研究結果

今年度の主な結果を以下に示す。A-1. 今年度、横断的調査 68 例、縦断的調査 30 例について測定を終了した。横断的調査では急性感染期治療例は残存プロウイルス量が低値を示した。早期免疫低下関連因子は解析中。A-2. 密度勾配溶液についてはパーコールが市販密度勾配溶液にその洗浄効率において明らかに優る結果であった。ウイルス陰性を確認する PCR 検査を利用出来る体制を構築した。A-3. HIV 陽性者の菌定量では唾液中 *Candida spp.* が 207.1 ± 424.4 、対照者が 2.3 ± 3.3 と約 100 倍多かった。*S. mutans* の菌数は対照者の約 10 倍多かった。免疫指標定量では HIV 陽性者の IL-8 濃度が対照者よりも高い傾向にあり、TNF α は HIV 陽性者 1 名で測定できた。A-4. 国内外文献調査を行い、研究実施施設の倫理委員会承認を得た。A-5. 昨年度抽出した主要トピックそれぞれの議論、特に検査、研究、妊娠/出産を重点的に精査し、議論の枠組みの検討を行った。A-6. 国内外の知見と海外のガイドラインを参考に年度内に改訂。B-1. 206 名に神経心理学的検査を実施し解析中。有症状 HIV 陽性者は HAND (疑) のみならず、アルツハイマーなど皮質性神経心理学的障害など多岐に亘っていた。B-2. Handbook of AIDS Psychiatry (Oxford University Press, 2010, New York) の一部を粗訳。298 例の分析結果では 1 年後のメンタルヘルスは改善していたが、約半数に問題があり不安はむしろ悪化していた。精神科協力診療リストを更新した。B-3. 日本透析医学会、透析医会、透析看護学会、臨床工学技士会の各理事会に諮り改訂参加の承認を得、作成メンバーの推薦、方針決定、担当部分の決定を経て草稿作成に入った。B-4. 基幹ネットワーク 4 カ所目の名古屋大学医学部附属病院で利用契約を審査中。主に看護師、薬剤師によるクリニックでの HIV 感染者診療支援をネットワークを用いて開始。B-5. HIV サポートリーダー養成研修 (3 日間) に累計 115 名が修了。大阪府内高等学校 11 校に出前講義し研究班作成 DVD 教材を使用、さらに養護教諭向け DVD 教材を企画・製作。B-6. ウェブ調査参加者 926 人の中間集計で「性生活の相談ができない」4 割、「HIV の話を誰ともできない」2 割であった。C-1. 調査した 10 名全員に何らかの心理的課題が見られたがカウンセリング経験有りは 3 名であった。C-2. 検査時の要確認及び陽性告知後カウンセリングにおける受検者 30 名の精神心理状況と聞き取り結果につき分析した。『HIV 検査相談要確認・陽性告知のポイント』マニュアル改訂作業中。C-3. アンケート調査では中核拠点病院 52、自治体および保健所 270 から回答を得た。エイズ予防財団実施の NGO 指導者研修会の企画・運営につき参加 NGO らの意見も含め検討を行った。D-1. ソーシャルワーカーによる経験報告は多くないが、チーム体制が成熟した環境では有効に機能する可能性が高かった。イベントで

の高校生の主体的関与が年々高まり市民活動としての意識も向上したが課題があった。D-2. 福祉関係者向けエイズ啓発研修を東京など 5 県域単位の研修を含め総数 20 回の研修を開催。累積的事例研究として HIV 陽性者受入れ実績のある高齢者施設の施設長にインタビュー調査を実施し、日本社会福祉学会で報告。D-3. 研究参加者は合計 176 名。参加動機は自己研鑽 (75%)、76% の参加者が HIV 感染症研修会の参加経験がなかった。研修参加で HIV 陽性者支援の意識変化「あり」が 78% で、受け入れ可能 40%、要準備 53% であった。今後も研修会参加希望は 98% であった。介護の研修も同様の傾向であった。HIV 陽性者介護上の不安は 53% であり、「知識では理解できても気持ちの上で不安」、「スタッフ全員が理解できていない」などの意見があった。i-net 参加施設は 63 に増加。D-4. 調査研究にて HIV 診療および福祉連携の実態および問題点の把握、各病院や福祉施設間の連携、今後の HIV 患者の受け入れについて検討を行った。その他、携帯を用いた服薬支援ツールの改良および検査予約システム開発、HIV 治療の薬剤情報提供ホームページの開発を行った。

4. 考察

指定研究の 2 年目であり調査結果の解析や追加調査、課題の抽出等に取り組んだ。ガイドライン、マニュアル、ハンドブック等や支援の各種ツールは実施での評価と改訂を一部行った。その他、多くの研究から重要な結果を得た。

5. 自己評価

1) 達成度について

当初計画を概ね実施でき目的を達成できた。

2) 研究成果の学術的・国際的・社会的意義について

本研究は HIV 感染症の治療等で課題を明らかにし、その対策につき検討を行うものであり、必要性は高い。いずれも学術的意義も高く、国際的にも新規性が高い。治療のガイドライン改訂など、社会的意義も大きいと考える。

3) 今後の展望について

これまでの研究結果を踏まえさらに研究を深める。

6. 結論

HIV 感染症の治療と関連分野 (治療・合併症、地域医療の質の向上、陽性者支援のための地域連携、長期療養支援) で課題を抽出し、ほぼ計画通りに研究を実施できた。

7. 知的所有権の出願・取得状況 (予定を含む)

特になし

別紙
研究発表

研究代表者

白阪琢磨

- 1) Ota Y, Hishima T, Mochizuki M, Kodama Y, Moritani S, Oyaizu N, Mine S, Ajisawa A, Tanuma J, Uehira T, Hagiwara S, Yajima K, Koizumi Y, Shirasaka T, Kojima Y, Nagai H, Yokomaku Y, Shiozawa Y, Koibuchi T, Iwamoto A, Oka S, Hasegawa H, Okada S, Katano H : Classification of AIDS-related lymphoma cases between 1987 and 2012 in Japan based on the WHO classification of lymphomas, fourth edition. *Cancer Med.* 2014
- 2) Tominari S, Nakakura T, Yasuo T, Yamanaka K, Takahashi Y, Shirasaka T, Nakayama T : Implementation of mental health service has an impact on retention in HIV care: a nested case-control study in a Japanese HIV care facility. *PLOS ONE* 8(7):1-6,2013
- 3) Yoshino M, Yagura H, Kushida H, Yonemoto H, Bando H, Ogawa Y, Yajima K, Kasai D, Taniguchi T, Watanabe D, Nishida Y, Kuwahara T, Uehira T, Shirasaka T : Assessing recovery of renal function after tenofovir disoproxil fumarate discontinuation. *J Infect Hemother*,18(2):169-74,2012
- 4) 白阪琢磨 : 抗 HIV 治療、最新の治療戦略について。第 87 回日本感染症学会学術集会・第 61 回日本化学療法学会総会合同学会、横浜、2013 年 6 月

研究分担者

渡邊 大

- 1) Watanabe D, Otani N, Suzuki S, Dohi H, Hirota K, Yonemoto H, Koizumi Y, Otera H, Yajima K, Nishida Y, Uehira T, Shima M, Shirasaka T, and Okuno T: Evaluation of VZV-specific cell-mediated immunity in adults infected with HIV-1 by using a simple IFN- γ release assay. *J Med Virol.* 85(8):1313-20, 2013
- 2) Watanabe D, Yoshino M, Yagura H, Hirota K, Yonemoto H, Bando H, Yajima K, Koizumi Y, Otera H, Tominari S, Nishida Y, Kuwahara T, Uehira T, Shirasaka T. Increase in Serum Mitochondrial Creatine Kinase Levels Induced by Tenofovir Administration. *J Infect Chemother.* 18:675-82, 2012
- 3) Watanabe D, Ibe S, Uehira T, Minami R, Sasakawa A, Yajima K, Yonemoto H, Bando H, Ogawa Y, Taniguchi T, Kasai D, Nishida Y, Yamamoto M, Kaneda T, Shirasaka T. Cellular HIV-1 DNA levels in patients receiving antiretroviral therapy strongly correlate with therapy initiation timing but not with therapy duration. *BMC Infect Dis.* 11:146, 2011

吉村和久

- 1) Harada S, Yoshimura K, Yamaguchi A, Boonchawalit S, Yusa K, Matsushita S. Impact of antiretroviral pressure on selection of primary human immunodeficiency virus type 1 envelope sequences in vitro. *J Gen Virol.* 94(5):933-43. 2013

久慈直昭

- 1) 久慈 直昭, 上條 慎太郎, 井上 治, 福永 朝子, 小川 誠司, 菅原 かほ, 奥村 典子, 山田 満稔, 浜谷 敏生, 吉村 泰典 : HIV 患者男性に対する生殖医療、産婦人科の実際 62 (4)、499-506、2013

大北全俊

- 1) 横田恵子・大北全俊 : ソーシャルワーク専門職定義の変遷と現状—社会倫理学・政治思想的含意に関わる一考察—, 神戸女学院大学論集 (60-1) : 207-214, 2013 年
- 2) 大北全俊、遠矢和希、加藤穰、Franziska Kasch、花井十伍、横田恵子、白阪琢磨 : HIV 感染症に関する倫理的な議論の枠組みについて— 海外文献の調査に基づく研究—。第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2013 年 11 月

鯉淵智彦

- 1) Adachi E, Koibuchi T, Imai K, Kikuchi T, Shimizu S, Koga M, Nakamura H, Iwamoto A, Fujii T. Hemophagocytic syndrome in an acute human immunodeficiency virus infection. *Intern Med;* 52:629-32. 2013.
- 2) Shimizu A, Kawana-Tachikawa A, Yamagata A, Han C, Zhu D, Sato Y, Nakamura H, Koibuchi T, Carlson J, Martin E, Brumme CJ, Shi Y, Gao GF, Brumme ZL, Fukai S, Iwamoto A. Structure of TCR and antigen complexes at an immunodominant CTL epitope in HIV-1 infection. *Sci Rep;* 3:3097. 2013.
- 3) Nomura S, Hosoya N, Brumme ZL, Brockman MA, Kikuchi T, Koga M, Nakamura H, Koibuchi T, Fujii T, Carlson JM, Heckerman D, Kawana-Tachikawa A, Iwamoto A, Miura T. Significant reductions in Gag-protease-mediated HIV-1 replication capacity during the course of the epidemic in Japan. *J Virol;*87(3):1465-76. 2013

仲倉高広

- 1) 仲倉高広、下司有加、渡邊大、白阪琢磨 : 箱庭療法が奏功した HIV 陽性者の心理療法—広汎性発達障害のある HIV 陽性者の事例—。第 27 回日本エイズ学会・学術集会・総会。熊本、2013 年 11 月
- 2) 仲倉高広 : 「精神的支援」ということばをめぐって臨床心理士が考えること。シンポジウム 8 (看護) HIV 陽性者にとって医療者による精神的支援とは?。第 27 回日本エイズ学会・学術集会・総会、熊本、2013 年 11 月

廣常秀人

- 1) 安尾利彦、治川知子、富成伸次郎、廣常秀人、白阪琢磨 : 意欲低下、自殺念慮、対人恐怖を主訴とした、ある HIV 陽性者との心理療法過程。第 26 回日本エイズ学術集会・総会、横浜、2012 年 11 月

秋葉 隆

- 1) Masao Moroi MD Nagara Tamami MD Masato Nishimura MD Kazuo Haze MD Tsunehiko Nishimura MD Eiji Kusano MD Takashi Akiba MD Tokuichiro Sugimoto MD Hiroki Hase MD Kazuhiro Hara MD Tomoaki Nakata MD Shinichiro Kumita MD Yoji Nagai MD Akiyoshi Hashimoto MD Mitsuru Momose MD Keiko Miyakoda MPH Naoyuki Hasebe MD and Kenjiro Kikuchi MD Association Between Abnormal Myocardial Fatty Acid Metabolism and Cardiac-derived Death Among Patients Undergoing Hemodialysis: Results From a Cohort Study in Japan. *Am J Kidney Dis* 61 (3) 466-475, 2013
- 2) Tetsuri Yamashita Kazuhiro Okano Yuki Tsuruta Takashi Akiba Kosaku Nitta Serum osteocalcin levels are useful as a predictor of cardiovascular events in maintenance hemodialysis patients. *Int Urol Nephrol* 45: 207-214, 2013
- 3) 秋葉隆：透析療法の現状。第110回日本内科学会講演会 教育講演、東京、日本内科学会雑誌102 (9) :2013.

横幕能行

- 1) Shibata M, Takahashi M, Yoshino M, Kuwahara T, Nomura T, Yokomaku Y, Sugiura W. Development and application of a simple LC-MS method for the determination of plasma rilpivirine (TMC-278) concentrations. *The journal of medical investigation*. 60(1-2):35-40. 2013.
- 2) Katano H, Yokomaku Y, Fukumoto H, Kanno T, Nakayama T, Shingae A, Sugiura W, Ichikawa S, Yasuoka A. Seroprevalence of Kaposi's sarcoma-associated herpesvirus among men who have sex with men in Japan. *Journal of medical virology*. 85(6):1046-1052. 2013.
- 3) Kitamura S, Ode H, Nakashima M, Imahashi M, Naganawa Y, Kurosawa T, Yokomaku Y, Yamane T, Watanabe N, Suzuki A, Sugiura W, Iwatani Y. The APOBEC3C crystal structure and the interface for HIV-1 Vif binding. *Nature structural & molecular biology*. 19(10):1005-1010. 2012.

佐保美奈子

- 1) 佐保美奈子：病院での人権研修においてHIV/AIDSから学べること、人権教育研究（投稿中）
- 2) 椿知恵、山田加奈子、古山美穂、佐保美奈子：勤務看護職の高校生への出張による性教育活動ー「体験」から考える、活動継続への支援ー、日本看護学会論文集（投稿中）

井上洋士

- 1) Omura K, Eguchi E, Imahuku K, Kutsumi M, Ito M, Inoue Y, Yamazaki Y : The effect of peer support groups on self-care for hemophilic patients with HIV in Japan. *Haemophilia* 19(6): 876-881, 2013.
- 2) 井上洋士, 戸ヶ里泰典, 細川陸也, 阿部桜子, 吉澤繁行, 若林チヒロ, 大木幸子, 板垣貴志, 高久陽介, 矢島嵩 : HIV陽性者をめぐる今日的課題 HIV Futures Japanプロジェクトでの検討プロセスを踏まえて. *日本エイズ学会誌* 15(2) : 85-90 , 2013.

藤原良治

- 1) 橋本謙、藤原良次、早坂典生、山田富秋、種田博之、白阪琢磨、「血友病 HIV 感染患者に対するインタビュー調査からの現状把握とカウンセリングに関する研究」 第27回日本エイズ学術集会・総会、熊本 2013年11月

桜井健司

- 1) 桜井健司：HIV感染者とAIDS患者の相談と在宅支援について～HIVと共に生きる社会を目指して。尼崎市保健所研修会、兵庫、2013年8月

小西加保留

- 1) 小西加保留、脊戸京子、高田雅章、梶原秀晃、大野まどか、戸田伸夫、白阪琢磨：市民主体のHIV啓発活動の検証。第27回日本エイズ学会共催シンポジウム、熊本、2013年11月

山内哲也

- 1) 山内哲也 社会福祉施設におけるHIV陽性者の受入れに関する福祉施設長の意識と行動プロセス。『医療社会福祉研究』第21巻 2013年
- 2) 山内哲也：表題：社会福祉施設長のHIV陽性者の受入れ戦略ー福祉施設長のインタビューを通して。日本社会福祉学会 秋季大会、札幌、2013年11月

下司有加

- 1) 下司有加、関矢早苗、岡本学、富成伸次郎、今村顕史、白阪琢磨：訪問看護ステーションにおけるHIV陽性者の受け入れに関する研究、第26回日本エイズ学術集会・総会、横浜、2012年11月

高田清式

- 1) Nishijima T, Gatanaga H, Shimbo T, Endo T, Horiba M, Koga M, Naito T, Itoda I, Tei M, Fujii T, Takada K, Yamamoto M, Miyakawa T, Tanabe Y, Mitsuya H, Oka S : Switchig Tenofovir/Emtricitabine plus Lopinavir/r to Raltegravir plus Darunavir/r in patients with suppressed viral load did not result in improvement of renal function but could sustain viral suppression: A Randomized Multicenter Trial. *PLOS ONE* 8: e73639. doi:10.1371. 2013
- 2) 高田清式、村上雄一、末盛浩一郎、安川正貴、辻井智明、西川典子、木村博史、井門敬子、中村真理子、藤原光子、中尾綾、小野恵子：HIV関連神経認知障害（HAND）における髄液中のHIV-RNA量、ネオプテリン量の測定。第27回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2013年11月

秘密保持契約書

エイズ対策研究事業の企画と評価に関する研究、研究代表者、福武勝幸（以下「甲」という。）とエイズ対策研究事業の研究代表者/分担研究者/研究協力者 氏名 _____（以下「乙」という。）とは、甲による平成 25 年度エイズ対策研究事業研究成果発表会（以下「発表会」という。）において、エイズ対策研究事業、各研究代表者等から示された研究成果の取り扱いについて、以下の通り契約を締結する。なお、発表会は各研究の成果を開示し、研究者間の相互理解を深め研究課題間の調整、研究協力の検討などを行うと共に、甲の研究協力者（学術顧問/評価委員）による評価のための情報とすることを目的に、厚生労働省疾病対策課担当官、評価委員、各研究代表者等の参加により甲が開催するものである。

第 1 条（情報の開示）

甲、乙は、発表会のために自己の保有する研究成果に関する機密情報を、自ら合理的と判断する範囲で発表会の参加者へ開示若しくは提供する。

第 2 条（秘密情報）

本契約において、秘密情報とは、本目的のため又はこれに関連して、発表会で参加者が開示若しくは提供し、参加者が知得したものの一切の情報をいう。

2. 前項にかかわらず、次の各号のいずれかに該当することを、乙が証明することができる情報は前項の秘密情報の定義からは除く。
 - (1) 開示又は提供を受けた時点において、既に公知であったもの
 - (2) 開示又は提供を受けた後に、自らの責めによらずして公知となったもの
 - (3) 開示又は提供を受けた時点において、既に自ら保有していたもの
 - (4) 開示又は提供を受けた後に、正当な権限を有する第三者から秘密保持義務を伴わず適法に取得したもの
 - (5) 秘密情報を使用又は参照することなく、独自に開発したもの

第 3 条（秘密保持）

乙は、秘密情報を秘密として扱うものとし、開示した者の事前の書面による承諾なしに、これを第三者に開示、提供又は漏洩してはならない。

2. 前項にかかわらず、乙は、法令、規則又は行政機関、裁判所その他の公的機関若しくは証券取引所により秘密情報を開示することを命令、指示又は要求された場合、当該命令等の範囲内に限って、当該開示を行うことができる。但し、当該開示を行うときは、乙は事前に開示した者に対してその旨を通知して対応につき協議するとともに、秘密情報の秘密性が可能な限り保持されるよう相当な措置を講じなければならない。

第 4 条（秘密情報の取扱い）

乙は、善良な管理者の注意をもって秘密情報を保管及び管理する。

2. 乙は、自らの研究組織において、秘密情報の開示又は提供を受ける者の範囲を、本目的又は本契約履行のために必要な最小限に限定しなければならない。
3. 乙は、開示した者の事前の書面による承諾なしに、本目的履行のために必要な範囲を超えて、秘密情報の全部又は一部を複写又は複製してはならない。

第 5 条（目的外使用禁止）

乙は、開示した者の事前の書面による承諾なしに、本目的履行以外の目的に秘密情報の全部又は一部を用いてはならない。

第6条（秘密情報の返還）

乙は、開示した者から要請があったときは、全ての秘密情報（その複写物及び複製物を含む。）を速やかに甲に返還する。なお、物理的な返還が不可能な状態で保存されている秘密情報については、復元不可能な態様にて、これが保存された媒体を廃棄するか、これを保存した媒体から消去する。

第7条（無体財産権等）

本契約のもとの秘密情報の開示又は提供は、開示した者から乙に対する、秘密情報にかかる特許、実用新案、ノウハウその他の無体財産権の譲渡又は実施権の許諾を伴うものではない。

第8条（譲渡禁止）

乙は、甲の事前の書面による承諾なくして、本契約に基づく権利若しくは義務の全部若しくは一部又は本契約上の地位を第三者に譲渡し、承継させてはならない。

第9条（有効期間）

本契約は、本契約書末尾記載の契約締結の日（以下「発効日」という。）に発効し、発効日から10年間で満了する。但し、本契約の期間満了の3か月前までに甲から本契約を継続しない旨の書面による通知が乙に対してなされない限り、本契約は1年間自動的に延長されるものとし、以後も同様とする。

第10条（規定外事項）

本契約に定めのない事項又は本契約の解釈に疑義が生じた事項については、甲乙信義誠実の精神に則り協議し決定する。

第11条（合意管轄）

本契約に関して生じた甲乙間の一切の紛争については、東京地方裁判所を第一審の専属的合意管轄裁判所とする。

本契約締結の証として本書2通を作成し、甲乙署名または記名押印の上各1通を保有するものとする。

2014年 2月 8日

東京都新宿区西新宿6-7-1

甲： エイズ対策研究事業の企画と評価に関する研究、研究代表者
東京医科大学 臨床検査医学講座

主任教授 福武 勝幸 印

ご住所

乙： _____

ご所属

ご署名

平成25年度 厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業
エイズ対策研究事業の企画と評価に関する研究
総括研究報告書

研究代表者 福 武 勝 幸
東京医科大学 臨床検査医学講座 主任教授
平成26年3月18日発行

印刷・製本 株式会社 創栄企画

事務局：〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-7-1
東京医科大学病院 臨床検査医学講座
TEL: 03-3342-6111 FAX:03-3340-5448